

熊本県言語聴覚士会

会報

KSTNET



第 37 号 平成 22 年 12 月 27 日発行

会長 小菌真知子

2010 年が終わろうとしています、本年は日本語聴覚士協会と共同して「言語聴覚の日」の事業を行いました。実行委員を若手の言語聴覚士の方々に引き受けていただき活気あるものになりました。準備から広報、当日の開催まで本当によく新人を中心に頑張ってもらい、来場者に喜ばれた温かい雰囲気になりました。

今年は 10 年の節目を迎えた次の 10 年の始まりの年でしたが、40 人で始めた会員数が 300 名近くになった現在、組織として変えていかなくてはならないことも多いと感じた年でもあります。

当会が職能団体として存在する意味は、「言語聴覚士の資質と地位の向上」と「言語聴覚障害を持つ方々ならびに社会への貢献」です。会の運営を担う理事会を 3 カ月に 1 回開催し、様々な課題の解決にあたっています。各地域の会員の声をできるだけ理事会に反映させるよう各ブロック長がほぼ理事を兼務しています。このブロック制は会員の数が 100 名を越えた頃に県内の地区を東西南北と中央で分けたのですが、現在の人数と病院の現状ではバランスが取れなくなっているブロックも出てきています。また、必要な業務を遂行する各部局も 10 年経ってこれで十分なのか、検討する時期に来ているでしょう。ブロックによっては、会員の意見調査をしたところもあるかと思いますが、会員のための県士会ですから会員の声によって変わっていく必要があるものと思っています。

当会のような会員数の少ない職能団体運営の非常に難しい点は、理事をはじめすべての役員が本業の忙しい中、ボランティアで行っていることです。会員数が何万人、何十万人という団体では専従の職員

によって強力な運営がなされ、国会議員を出して自分たちの権利を主張する活動を行っています。

私たち理事一同は『言語聴覚士を取り囲む現状をもっとよくしていきたい』との一念だけで県士会業務にあたっていますが、会員にとっては何をやっているのか情報が少ないということになる現状もあります。

現在、年 1 回の総会と各ブロック会で顔を合わせる機会以外は、ファックスによる研究会通知やホームページでの情報提供が精一杯のところですが、もっと情報がうまく流れるようないいアイデアがあれば、ぜひご提案いただきたいと思います。また、こんなことをやってはというご意見もぜひいただきたいです。現在は臨床経験年数の長い言語聴覚士が立場上、理事を引き受けていますが、県士会の活動のためには若い力をもっともっと必要です。20 人の理事が知恵を絞るだけでなく、300 人の会員のエネルギーを集めるとすごい力になると思います。2011 年は、さらに充実した県士会になるよう会員みんなで力を合わせていきましょう。

小児指導者連絡会・子どもサポートネット

合同学習会

日時：平成 22 年 8 月 28 日（土）15:00～17:00
場所：熊本駅前看護リハビリテーション学院
内容：「言語聴覚士によるコミュニケーション支援
とは～何を見、どう関わるのか～」

講師：国立障害者リハビリテーションセンター学院

非常勤講師 中村公枝先生

「STに必要とされる子どもとの関わりの基盤」として

- ①学習する主体者としての子どもへの信頼。
- ②子どもの表れ（行動）の奥にある意図や気持ちへの洞察と敬意。
- ③（ST）自身の内面への気付き
- ④相互関係性の理解。
- ⑤モデルとしての自己（ST）の存在の意義。

をあげられていた。①②について、私も、療育が子どもの主体的な遊びや経験の場になるよう心掛けているが、ともすれば教える・教え込む訓練になっているのでは？と反省する面もあった。また③④⑤については、子どもと接している時自分がどう感じているか、客観的に見つめる視点が大事で、「感情は関わる相手に伝染していく」「感情は自然に獲得するのではなく育てるもの」というお話に、ドキッとすることもあった。今後は、療育中相手の感情だけでなく自分の心も大切に、自身のことば掛けの内容とともに、表情や物腰にも目や心を向けていきたいと感じました。

中村先生が、STとして一人一人の子どもさんや保護者と積み上げてこられた長年の知恵や経験がいっぱい詰まった充実した内容で、また子ども達に会うのが楽しみになるような研修会でした。

熊本県ひばり園 木庭結雅（こば ゆか）



第4回 言語聴覚の日 くまもと大会

日時：平成22年9月26日（日）

場所：熊本県民交流会館パレア

残暑も過ぎ去った秋晴れの平成22年9月26日（日）、第4回「言語聴覚の日」くまもと大会を、街の中心に立地している熊本県民交流会館パレアで開催しました。会場には老若男女問わず100名前後の参加者が集まり、その内訳は、高校生や専門学校生、コミュニケーション障害をお持ちの方やそのご家族、医療従事者、介護職者、言語聴覚士の名を初めて耳にする一般参加者など多岐にわたった。そして、参加者はもちろん、実行委員を含めて今大会に関わったすべての人が、各々の立場から「コミュニケーション」「言語聴覚士」について考え、理解を深める機会となりました。

第4回「言語聴覚の日」くまもと大会を企画・開催するにあたり、5月にくまもと大会実行委員会を結成し実行委員は、県士会の意向もあり、1年、2年目の言語聴覚士を中心に、企画、運営にあたる事になりました。はじめにテーマとして「コミュニケーション」を掲げ普段は気にも留めず当たり前となっているコミュニケーション活動ですが、それができない方もおられ、出来ることがどれだけ幸せであるかについて考えて欲しいとの思いと、言語聴覚士の仕事や活動について理解を深めてもらいたいとの思いからでした。

大会は、日本言語聴覚士協会の深浦順一会長による開会のあいさつで幕を開け、日本における言語聴覚士の歴史や現状、「言語聴覚の日」開催の目的についてスピーチがあり、会場の参加者が熱心に耳を傾けていました。続いて協会作成の言語聴覚士紹介ビデオが上映され、いよいよメインプログラムへと進行了しました。

大会前半は、熊本のローカルタレントであり熊本県介護福祉士会名誉顧問でもある英太郎氏を招き、コミュニケーションをテーマにした講演会「コミュニケーション：英太郎談義」や新人言語聴覚士との座談会「言語聴覚士って？～英太郎が斬る!!～」を行いました。

後半は、「コミュニケーション障害体験&嚙下食展

示」と題して、会場全体にパネル展示や体験ブースを用意し、参加者にコミュニケーション障害体験や嚥下食の試食、聴覚検査などを実際に体感できるというプログラム構成でした。

講演会「コミュニケーション:英太郎談義」では、英太郎氏が介護福祉士やタレントとしての経験や実際の体験談を元に、コミュニケーションは受信・発信の相互のやりとりを基本として多様性があることやコミュニケーションスキルの重要性について話され、具体的には、表情や声のトーンによって、その人の印象や精神状態・体調の善し悪しなどが伝わってしまうこと、重要なコミュニケーションスキルとして、相手を読む力と話題の引き出しの多さを身につける意識を持つことが大切であるという内容でした。時折、講演中に得意の物まねや冗談などのユーモアを交え、会場を大いに沸かせました。

つづいて行われた座談会「言語聴覚士って?~英太郎が斬る!!~」は、英太郎氏が新人言語聴覚士3名から、実際の現場の体験談や本音を聞き出す形式で行われ舞台上では、タレント英太郎氏に対し、予定にない質問に戸惑う姿や思いもよらぬ本音の回答など、新人言語聴覚士ならではのやりとりが繰り広げられ客席からは、どっと笑い声が起るなど会場全体が和んだ雰囲気で行進していきました。内容は、こういった課程を経て言語聴覚士になるのか、一日のスケジュールなど実際の業務内容、臨床の現場に立ってみて困ったこと、やりがいや楽しさなどが紹介され、中でもやはり日々の業務で感じるやりがいについては、担当患者の話など具体的な内容が語られ、会場全体が聞き入っていました。

次に、「コミュニケーション障害体験&嚥下食展示」では高次脳機能障害、聴力検査、発話障害、失語症、機器展示(小児関係)、嚥下食展示の各ブースを設置し、展示パネル・体験コーナーを用意した。展示パネルでは、病気や障害の説明と言語聴覚士の関わりについて紹介した。検査・体験コーナーでは、言語聴覚士が行うコース立方体テストやブローイング検査の簡易化したものなどを用意した。実際に体験した参加者は、結果を友人同士で競いあったり、難聴者の聞こえ方の再現音声を聞いて想像とは全く違うことに驚いていたり、電気式人工喉頭を使うのに四苦八苦したりなど、多くの参加者でにぎわいました。

失語症体験では、旅行へ行くとなればいつ・どこ

へ行きたいかをテーマに、参加者は失語症患者役と訴えを聞き出す役にわかれて行った。制限された表現手段でどうすれば伝わるのか、どうすればスムーズに聞き出せるのかなど、互いにジェスチャーや地図などの道具を駆使して取り組まれていました。

中でも一際にぎわいをみせたのは、嚥下食を試食体験できる「嚥下カフェ」でした。業者の方に協力を仰ぎ、さまざまな食形態の嚥下食やトロミつきの飲料などを用意し、食感や味、飲み込みやすさなどを体感してもらった。また、リクライニング車椅子に座って様々な角度で食事を取る体験や、家庭で嚥下食を作ることを想定した調理実演などを行いました。約1時間程度の短い時間でしたが、各ブースでは質問が飛び交い、説明を熱心に聞く参加者の姿が閉会時間までみられました。

先にも述べたように、我々実行委員は「コミュニケーション」というテーマを通じ、一般の方々へ言語聴覚士を知ってもらおうと様々な企画を考え実行しました。当日、収集したアンケート結果によると、参加者の年齢層は20代、50代の29%を中心に、10代・30代・40代・60代が約10%ずつであり、幅広い年齢層の参加が見られました。そして、全体の内容については、「大変良かった」が65%、「まあまあ良かった」が32%で、今後同じようなイベントがあれば参加を希望するかという問いには97%が「参加を希望する」との回答を得ました。また、もっと知りたい内容については、「コミュニケーション機器」「失語症」がそれぞれ21%、「高次脳機能障害」が17%という結果でした。

また、自由記述欄には「コミュニケーションの大切さを知ることができた。」「とてもわかりやすく、講演も面白い。体験コーナーもよかった。」「STになりたいという気持ちが大きくなりました。」など、多くのコメントが寄せられました。

今回、くまもと大会では、新人言語聴覚士が中心に企画を進めてきましたが、この「言語聴覚士の日」を実行し、言語聴覚士の専門領域は誰しも、関心の持てる内容であったことが理解できました。また私自身、言語聴覚士について少しでも分かってもらえて良かったと率直に感じました。しかし同時に、まだまだ一般の方の言語聴覚士に対する認知度が低いということを実感させられました。現在、超高齢化社会を迎え、コミュニケーション障害や嚥下障

害などより身近な問題となってきたのは間違いないと思います。今後も国家資格・専門職としての「言語聴覚士」の認知度向上、また、実際の役割やその必要性についてなど、関連領域だけでなく一般社会に対して、広く周知・広報活動を行っていく必要があると感じました。

実行委員会 熊本機能病院 竹谷剛生

熊本市民健康フェスティバル報告



参加していただいた先生方は1日目15名、2日目15名の協力がありました。来客数は1日目332名、2日目330名でした。脳力チェック、聴力検査友に大盛況でした。来年は北部ブロックが担当となりますのでご協力お願いします。参加していただいた先生方お疲れ様でした。

玉名市健康食育福祉フェア報告

参加していただいた先生方は8名の先生方の協力がありました。来客数は118名でした。脳力チェックも盛況でした。来年もがんばります。



事業部部長 悠紀会病院 山本 恵仙

ブロックだより

北部ブロック

荒尾・玉名・山鹿・鹿本

東部ブロック

菊池・阿蘇

中部ブロック

熊本

南部ブロック

益城・八代・人吉・球磨・水俣

西部ブロック

宇土・天草



[北部ブロック報告]

北部ブロック会では11月20日に青磁野リハビリテーション病院にて勉強会を開催いたしました。

今回は「日本摂食嚥下リハビリテーション学会フィールドバック」「歯科衛生士の役割と口腔ケアの手技」をテーマに当院よりSTと歯科衛生士が担当しております。次回は、来年度2月18日に勉強会を開催する予定です。お忙しい中とは存じますが、多数の御参加をお待ちしております。

青磁野リハビリテーション病院 野田和宏

[東部ブロック報告]

勉強会を下記の通り開催しました。

日時：平成22年 12月1日（水）

場所：熊本セントラル病院

内容：症例検討会

テーマ：摂食・嚥下障害患者のリハビリテーションについて

①「輪状咽頭筋弛緩不全を呈した嚥下障害者へのアプローチについて」

熊本セントラル病院 藤田侑希

②「食道入口部開大不全に対するバルーン法の効果」

熊本リハビリテーション病院 中瀬洋昭

③「重度嚥下障害を呈し自宅退院を果たした1症例について」

熊本セントラル病院 上野和博

④「誤嚥性肺炎による嚥下障害者を経験して感じたこと」

菊陽台病院 川村珠美

今回は4つの演題をグループに分けてディスカッション形式での症例検討会を行いました。グループに分けたことで、各施設の悩みや相談を含めたディスカッションを行うことができ阿蘇・菊池周辺の言語聴覚士の現状を知る良い機会となりました。次回は、2月に阿蘇温泉病院の担当で開催予定です。

熊本セントラル病院 池田 健吾

[中部ブロック報告]

中部ブロックでは、近日中に定期勉強会の開催を予定しております。現在演題を募集しておりますので皆さん挙ってご応募ください。

また、毎年恒例となっております中部ブロックの忘年会ですが、今年は日程の調整がつかず今のところ開催の目途が立っておりません。代わって新年会の開催になるかも知れませんが、こちらも皆さまのご参加をお待ちしております。詳細につきましては決まり次第メールまたはFAXにてご連絡いたします。

御幸病院 林亜星

[南部ブロック報告]

南部ブロックでは、9月25日に宇賀岳病院で勉強会を行いました。池田先生が「宇賀岳病院でのとろみの統一について」のご報告があり、大畑先生から「PEG 増設前後の嚥下評価体制が経口摂取移行へ果たす役割」についてのお話をいただきました。11月頃には外部講師をお呼びして研修会をしたいと思っておりましたが、テーマ等が決まらず延期になっています。次回は1月22日に八代労災病院での勉強会を予定しています。外部講師の先生をお呼びしての研修について、お勧めの情報がありましたら教えていただきたいと思います。よろしく願いいたします。

熊本県こども総合療育センター 森田朋子

[西部ブロック報告]

11月26日(金)にニュー天草病院で勉強会を開催しました。

今回はニュー天草病院の坂本先生による「嚥下障害

～カプフィルムの導入～」という題で発表していただきました。咳反射・嚥下反射を促進させるといった最新の情報を提供して下さり大変勉強になりました。

また勉強会終了後には西部ブロック忘年会を実施しました。多くの先生方とざっくばらんな話ができ大変有意義な時間となりました。

次回は2月に勉強会の方を計画しております。

今年もいろいろと先生方にはお世話になりました。

また来年もご指導よろしくお願い致します。

楽洋の里 池田 聖司

書籍紹介



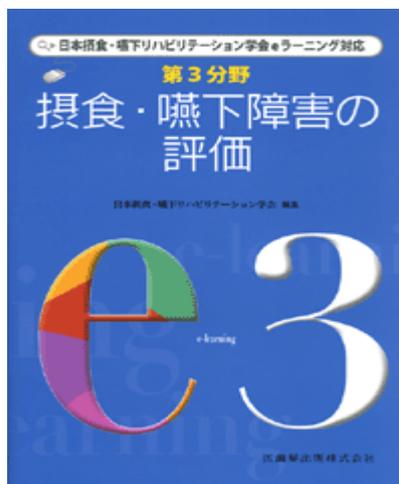
【摂食・嚥下障害の評価】

日本摂食・嚥下リハビリテーション学会 編

発行年月:2011年1月

ISBN978-4-263-44863-2

医歯薬出版:3150円



摂食・嚥下領域の基礎知識について、体系的に6分野78項目に分類された最重要事項をわかりやすく解説していますので、摂食・嚥下リハビリテーションにかかわるすべての医療スタッフで活用できます。

理事会議事録



第3回理事会

平成22年度 熊本県言語聴覚士会
第3回理事会

日時：平成22年10月8日(金)

場所：菊南病院

出席：小藪、三浦、丸内、大津、池田(聖)、森崎、
後藤、平ノ上、小堀、山本(由)、吉松、兼
田、野田、大塚

書記：

1. 報告事項

1) 会長

第4回連携学会(歯科衛生士代表)

会費：2000円

日時：H22. 2. 13(日)

場所：崇城大学市民ホール

訪問リハ研修会修了

200名の参加 ST：10名弱…STの参加の呼びかけ

- ・ステップアップの研修会も検討中。
- ・熊本は合同で行う研修会が上手くいっているが、他県は合同で開催すること自体が難しい状態。

10月10日 九州地区会議：佐賀(アバンセ)

平成12年度九州地区大会 熊本で引き受けていく方向

11月6日 全国会議

認定講習会を九州や関西でもでも開催できないのか

2) 事務局

第4回 言語聴覚の日についての報告

平成22年9月26日(日) 英太郎氏

による講演会および座談会など

参加者：約100名

・滞りなく終了したが参加者が少ないため、どう集めるかが課題。

→広報、啓発の方法を検討

：大きなホールを使ってやるのも限界か…

形式を考える必要があるのではないかな。

・中央での開催でも200名程度である。

3) PEGケアカンファレンス世話人会

12月11日(土)に行なわれる3会合同カンファについて

嚥下治療ネットワーク部門より

誰でも分かる嚥下評価と嚥下食の工夫(約20分)

…STが講義を(森崎先生に決定)

お薬が嚥下機能に及ぼす影響(約20分)

・世話人会より、現在訪問に携わっているSTに是非お願いしたいと依頼

PEGサミット

阿蘇(阿蘇シエイト)

1泊2日の研修を検討中

・嚥下食の試食、嚥下評価、PEGについて等

4) シルバーサポート

介護保険に関するテキストを作成中(500部)

…カラーにしたいが経費が掛かる(500部：20万)

部：20万)

5) その他(各部局より)

2. 検討事項

1) 学術研修部

12月の生涯学習講座について

12月19日 13:00~16:30

→講師調整済み(早めの調整が必要)

2) その他

- ① 事務局移動のお願い
- ② 選挙管理委員の選出
- ③ 山本理事より提案事項

①菊南病院では人員的に今後、事務局の運営が難しい

→青照館で検討中

②選挙管理委員の選出(告示 開票 報告)3人

→大塚先生に一任

③提案事項

- ・ 県士会活動に参加する人数が少ない(健康フェスティバルや学術研究会、言語聴覚の日など)、決まった人しか参加しない、メリットがない、また頼みにくいのが現状です。

→何かいい対策を

・人数が増えた分、ブロック分けを検討したほうが良いのではないか

→市町村合併に伴い熊本市内になったところが増えたなど

例：熊本市内を東西南北に区切り、北部ブロックの中に→市内の北部と県北の2つに分ける、東部ブロックの中に→市内の東部と阿蘇方面の2つに分ける。西部を天草ブロック(三角から天草)、県南部ブロック(宇土から南)など→その後、理事の選出として均等に市内から3名×東西南北で12名、県北、天草、県南より2名程度選出すると合計18名となります。また、役割が2重、3重にと重なっている理事の方が多いので役割を県士会会員に分担したほうがよいのではないか。

(ブロックからの意見)

- ・連絡が上手くいかない
- ・イベントの参加が少ない
- ・参加者が限られる
- ・場所が遠い
- ・業務分担(365日)

※それぞれのブロックでも検討。ブロックが

あることでのメリットがあると思えるには?メリットを作る?ブロック長を持ち回りにする?各施設のSTが何かしらに関わるように配分する?部局編成の検討?

…10年目の節目であるためシステムの検討を。

★提案(ブロックに対する意見、部局の編成、ブロックの編成、役割の分担の方法)があれば12月末までにメールで送信する。

3. 各ブロック報告

<北部ブロック>

・8月7日

失語症の評価と訓練(大塚先生、宮本先生) 87名の参加

・次回は11月の末頃を予定

<南部ブロック>

・勉強会 7名参加

<西部ブロック>

・9月3日勉強会実施
症例検討会

・11月に勉強会と忘年会開催

<東部ブロック>

・12月1日

嚥下障害の症例検討(4例)

<中央ブロック>

・10月26日

構音障害勉強会予定：青照館 松原先生

4. その他

財務部より

ブロック長宛てに未納の施設をメールで送信する。

名簿の不備が多い

…細かい焼役割分担が必要か。

広報部

高校への広報

訪問リハ協議会

10月4日

ST事務局員を一人選出

8月28日

サポートネットと合同研修会

45名参加

10月30日

小児連絡会(ひばり園にて19:00~)

10月21日

サポートネット(駅前リハ)

次回 理事会 平成23年 1月 14日(金)

発行：熊本県言語聴覚士会

事務局：菊南病院 (TEL096-344-1711)

〒861-5513 熊本市鶴羽田町685

広報部：宇賀岳病院 (TEL0964-32-3111)

部長：平ノ上 隆康

編集：メディカル・カレッジ青照館

(TEL0964-54-2211)

編集責任者：小堀 晶弘